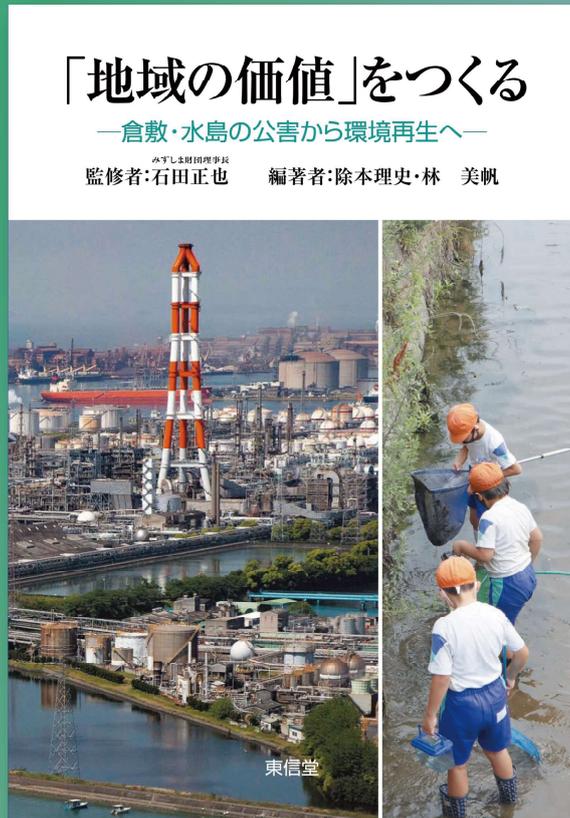


出版記念シンポジウム



『地域の価値』をつくる

東信堂 2022年10月出版

『地域の価値』をつくる』出版を記念して、第I部・第II部執筆者による内容解説をおこなうシンポジウムです。外部コメンテータからの評価も交えながら、全国の人に書籍と水島を知ってもらおうと考えております。

日時：2023年2月11日（土）13:30-16:30 会場： あさがおギャラリー
みずしま資料交流館

参加費 無料

岡山県倉敷市水島東栄町 11-12

会場定員 15名

<報告者> 敬称略

- 第1章 除本理史 (大阪公立大学)
 - 第2章 香川雄一 (滋賀県立大学)
 - 第3章 江頭説子 (杏林大学)
 - 第4章 傘木宏夫 (NPO 地域づくり工房) 藤原園子・塩飽敏史 (みずしま財団)
 - 第5章 塩飽敏史 (みずしま財団)
 - 第6章 尾崎寛直 (東京経済大学)・藤原園子 (みずしま財団)
 - 第7章 除本理史 (大阪公立大学)・林美帆 (みずしま財団)
 - 第8章 歌川学 (産業技術総合研究所) 近江貴治 (久留米大学)
- コメンテータ 寺西俊一 (一橋大学名誉教授)



YouTube
ライブ配信

主催



みずしま財団
公益財団法人 水島地域環境再生財団

〒712-8034 岡山県倉敷市水島西栄町 13-23
TEL086-440-0121 FAX 086-446-4620
<https://mizushima-f.or.jp/> webmaster@mizushima-f.or.jp

会場参加申込
はこちら→



<書籍説明>

本書は、岡山県倉敷市水島地区における環境再生の取り組みの歴史と現状、そして今後の課題について総合的に明らかにしている。なぜ水島なのか。それは、戦後の地域開発によってコンビナートからの大気汚染公害が深刻化し、今も脱炭素の課題を抱え込んだ典型的な地域だからである。倉敷市は2018年の西日本豪雨に見舞われたため、脱炭素の重要性が強く認識されている。

大気汚染被害者による倉敷公害訴訟は1996年に和解解決を迎え、2000年に水島地域環境再生財団(みずしま財団)ができて「環境再生のまちづくり」をスタートさせた。大気汚染を改善し、自然を回復して住みよいまちを取り戻すこと、防災や脱炭素を進め住民がコンビナートと共生しうる地域をめざすこと等が課題である。公害経験の継承を軸とした協働のまちづくりにおいて水島は先進地であり、その取り組みにぜひ注目していただきたい。

<タイムテーブル>

- 13:30-13:40 趣旨説明 (林美帆・みずしま財団)
来賓あいさつ (下田勝司・東信堂社長)
- 13:40-15:50 各章の解説 (表面参照)
- 15:50-16:10 コメント (寺西俊一・一橋大学名誉教授)
- 16:10-16:25 編者リプライ
- 16:25-16:30 閉会挨拶 (福田憲一・みずしま資料交流館館長)

『「地域の価値」をつくる -倉敷・水島の公害から環境再生へ』

はしがき (除本理史・林美帆)

序 水島の環境再生と資料館づくりの意義 (下野克己)

水島地域の調査研究などに50年以上取り組んで (磯部作)

第I部 公害と地域社会

第1章 戦後日本の地域開発と公害 (除本理史)

第2章 工業化と地域社会の変容 (香川雄一)

第3章 「倉敷市公害患者と家族の会」の軌跡 (江頭説子)

第II部 環境再生に向けて

第4章 「水島再生プラン」とまちづくりの現在 (傘木宏夫・藤原園子・塩飽敏史)

補論 水島における環境学習のまちづくり

第5章 瀬戸内海の家ごみ問題と政策形成 (除本理史・塩飽敏史)

第6章 公害経験を踏まえた健康づくり (尾崎寛直・藤原園子)

第7章 「地域の価値」をつくる (除本理史・林美帆)

第8章 脱炭素を水島から (上園昌武・歌川学・近江貴治)

第III部 倉敷・水島を語る

太田映知さん／小畑照子さん／里見和彦さん／岡浩二さん／古川明さん／福留正治さん

資料／あとがき (除本理史・林美帆)／索引／執筆者紹介



地球環境基金助成事業

みずしま財団で書籍販売しています

